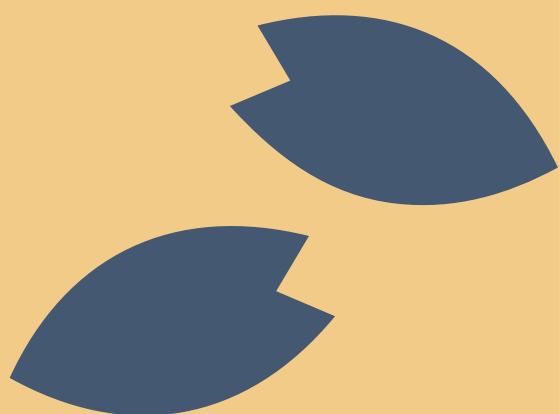


PETAL

知識の花弁

No.16



私たちが紹介したい、本。

人間は読んだ本でできている？
先生たちに大学生の頃にどんな本を読んでいたのか、
最近読んだ面白かった本などをお聞きしてみました。



『視覚はよみがえる：三次元のクオリア』

スーザン・バリー 著、宇丹貴代実 訳 /
筑摩書房、2010、筑摩選書 0008

私が長らく研究に携わっている立体視についての本を紹介したい。立体視とは左右眼の網膜像を脳が融合することで成立する、独特の立体感を伴う視覚体験を指す。立体視は日々の生活で世界の奥行き（三次元構造）を知るために利用される視覚機能であり、VRゴーグル着用時や3D映画鑑賞時に得られるあの立体感はこの利用したものである。一方、この本の筆者スーザン・バリー氏は強い斜視により、左右眼の網膜像が融合できないほど大きくズレていたため、生来立体視を体験することがなかった。しかしある視能訓練士との出会いによって、48歳の誕生日も過ぎたある日、突然世界が立体的に見えるようになった、という体験談をまとめたのがこの本である。氏の本職は神経科学者であって、立体視を理屈としてはよく理解していたが、そうして仕組みを理解することと体験することは全く別物であったという（この点「メアリーの部屋」の思考実験を思わせる）。本書を特徴づける立体視力獲得後の多幸感にあふれる日常描写は視覚科学の教科書や論文にはなかなか見ることができない、だからこそ無二の読書体験を生むものとなっている。48年ぶりに新しい視覚機能を獲得したという本書の話は、所謂「臨界期」の常識を覆す事例として学術的に興味深いだけでなく、とくにあきらめていたことが人生の半ばに思いがけず実現した幸運の物語として、多くの人にも共感を持って楽しめるものだろう。

田谷 修一郎 先生
(法学部専任講師)



『予告された殺人の記録』

G・ガルシア＝マルケス 著、野谷文昭 訳 / 新潮文庫、1997

『百年の孤独』

G・ガルシア＝マルケス 著、鼓直 訳 / 新潮社、2006



二十一歳の頃、友人との待ち合わせのために入った新宿の紀伊國屋書店で、背表紙のタイトルが目がとまった。G・ガルシア＝マルケス『予告された殺人の記録』。開いてみた冒頭の一節、「自分が殺される日、サンティアゴ・ナサルは、司教が船で着くのを待つために、朝、五時半に起きた。」全てが具体的に明示されているのに、何も分からない。それは、マルケスの名をコロンビアから世界に知らしめた『百年の孤独』の「長い歳月が流れて銃殺隊の前に立つはめになったとき、恐らくアウレリャノ・ブエンディア大佐は、父親のお供をして初めて氷というものを見た、あの遠い日の午後を思いだしたにちがいない。」という有名な冒頭とも重なる語り口だ。

幼いころ祖母から語り聞かされた迷信や言い伝え、新聞記者として厳しい政治的・社会的現実と向き合ったルポルタージュの手法、大衆への語りかけのバリエーション。マルケスは、様々な文体、モチーフ、プロットを探求し、自明な事柄には文飾を与え、錯綜した事象は簡潔な筆致で描出し、世界に満ちあふれるアンビバレントな不整合と享乐的に対峙する。「文学は人からかうために作られた最良のおもちゃである」と喝破するマルケスにとって、「魔術的リアリズム」の旗手という世界的な評価やノーベル賞作家であることは、小説の神様が彼に微笑んだ副産物にしか過ぎない。

吉永 壮介 先生
(文学部准教授)



『昆虫にとってコンビニとは何か?』

高橋敬一 著 / 朝日新聞社、2006、朝日選書 812

日本人であれば、『ファーブル昆虫記』の名を知らない人はまずいない。一方、ファーブルの母国であるフランスでは、ファーブル昆虫記はほとんど知られていない。特に、セミは鳴かずチョウが舞わないパリでは、生きた昆虫は人々の関心の対象外である。逆に言えば、昆虫は日本人にとって身近な存在であるからこそ、『ファーブル昆虫記』は長く日本の子供たちの心を捕えている。

ところが、そんな日本人でも、大人になると多くの場合昆虫への興味を失う。ホテルなどごく一部の昆虫は愛でるが、ガやゴキブリなどの昆虫は嫌悪の対象とさえなる。自然保護や生物多様性の重要性について一応理解はしているが、それは身の回りのことではなく、どこか遠い場所での話のように感じている。

しかし、望むと望むまいと、都市部においても昆虫は身近にいる。そして、われわれの生活は、昆虫の世界に常に多大な影響を与えている。

最近、家の外灯や街路灯が蛍光灯からLEDに入れ替わった。LEDは電力コストを抑えるだけでなく、昆虫を誘引しないという効果を持つ。これで、意味なく外灯に飛来する昆虫たちの数が、劇的に減った。LED化によって生活を脅かされたヤモリたちは、家の外壁から離れて林に帰っている。

このように、人間生活と生き物との関係は、ごく身近なところでも常に変化している。人間生活と昆虫の生態との相互作用に思いを巡らせるのは、自然への関心を深める第一歩である。

上田 衛門 先生
(商学研究科教授)



『青が散る』(上・下)

宮本輝 著 / 文春文庫、2007

「上手ということと、強いということとは、別のものやからなア。」これは、新設大学にひよんなきっかけで入学し、これまた偶然誘われてテニス部を作ることになった、主人公椎名燎平が、自身のテニスのスタイルについてテニス部の盟友から指摘される言葉です。ほぼ全てが受身的に始まった燎平の大学生活ですが、その後の4年間、授業は疎かバイトや就職活動などもそっこのけでただひたすらテニスに明け暮れることとなります。本書は、燎平のそんな日常生活が鮮やかに描かれている、いまや古典とも言える青春小説です。

私が本書を最初に読んだのは高校生の頃でした。ただテニスに没頭する燎平の大学生活にある種の憧れを感じながら、自分も何かにひたすら打ち込む大学生活を送るのではないかと漠然と考えていました。

日吉で始まった実際の私の大学生活は、その時の私が持っていたイメージとはだいぶ違うものとなりました。しかし、冒頭の台詞は私の記憶に残り、大学時代もそれ以降も、時折思い出すことがありました。スポーツの世界を離れると、この物語のテニスのように「勝利」を目指す状況はほとんどなく、その場合上手であることや、強くあることが必ずしも意味を持つわけではありません。その上で、この台詞は、何か自分にとって大切なものに打ち込む際に目指す方向は一つではない、「良さ」の方向は自分で選べるものなのだ、と言っているように私には感じられたのです。自身のスタイルについて、上手になりたいのか、それとも強くなりたいのか、迷いながらテニスに打ち込む燎平は、最終的にどちらの道を選ぶのでしょうか。

井深 陽子 先生
(経済学部教授)



上) 戦災で焼け落ちた
旧図書館大広間
: 慶應義塾図書館所蔵



左) 小泉信三
: 慶應義塾福澤研究センター提供

「本塾図書館に特に一室を設けて保存研究の資と致し永く御厚意を記念可致候」。小泉塾長の礼状にはこう書かれてありましたが、前述の如く図書館は空襲で被災。移動しきれず地上階に残された鏡花の蔵書836冊は残念ながら灰燼に帰しましたが、少し前に地下書庫に移された自筆原稿と遺品の数々は、ほぼ寄贈時のままに保管され、現在は堅牢な貴重書室で厳重に管理されています。

実は図書館が被災したのと同じ日、下六番町の泉家の借家も空襲によって失われましたが、すでにすぎ夫人は熱海に疎開、特に手元に残した鏡花の愛用の品々も焼失を免れ、現在は泉鏡花記念館でお預かりしています。

鏡花が没して80年。未来へと受け継ぐため、敢えて別れ別れとなった遺品たちは、数年ごとに鏡花の生まれ故郷である金沢の記念館で再会を果たしています。次はどの資料たちが旧交をあたためる場を作ろうか？ 考えるだけでも楽しい日々です。

数年前、ちょっとおもしろい発見がありました。鏡花がとりわけ愛玩したためか、寄贈を見送り泉家に残された萬古焼の白い大兎。その容れ物であったと思われる箱が貴重書室収蔵の遺品の中に確認されたのです。兎グッズコレクターで知られる鏡花の蒐集品のうち、比較的小さい兎たちがぎっしり詰められた木箱。寄贈の準備を進めるはず夫人が丁度よい空き箱と思って選んだのでしょうか？ 長年ともに暮らした兎たちを一つ一つ箱に収める夫人の姿がほほえましく偲ばれます。



泉鏡花記念館の展示で再会した大兎と箱

泉鏡花 (1873-1939)

明治6年11月4日、石川県金沢町(現金沢市)下新町生まれ。9歳の時に死去した母鈴から生前教えられた「向かい干支」(自身の干支から数えて七つ目の干支がお守りになるという風習)に従い、酉年の鏡花は兎(卯)のものを集めたことで知られている。幼い頃から異世界への関心が高く、「高野聖」や「春昼・春昼後刻」「草迷宮」「天守物語」などにその感性を昇華させた。特に昭和40年代以降の三島由紀夫や澁澤龍彦らによる再評価を受け、現在は幻想文学の大家として愛読者も多い。金沢の生家跡地には平成11年(1999)に泉鏡花記念館が開館、令和元年(2019)に20周年を迎えた。



泉鏡花記念館(左)と学芸員 穴倉玉日さん(右)

貴重書紹介

幻の鏡花室

穴倉 玉日

(泉鏡花記念館学芸員)

昭和20年5月26日午前零時20分、無数の焼夷弾によって、見るも無残に焼け落ちた慶應義塾図書館(旧館)。その地下書庫で、ひっそりと身を寄せ合うようにして難を逃れた資料たちの存在をご存知ですか？

昭和16年8月5日、現在では美と幻想と反俗の作家として知られる泉鏡花(1873-1939)の死から約2年後のこの日、麴町区下六番町(現千代田区内)の泉家――おもに主人亡き後の二階の書斎から多くの遺品が運び出され、慶應義塾図書館に寄贈されました。当時の塾長は小泉信三。小泉塾長は鏡花が最も信頼する年下の友人の一人であった水上瀧太郎と御田小学校からの親友であり、瀧太郎の妹を妻に迎えた間柄でした。瀧太郎は昭和14年9月7日に没した鏡花の後を追うよう

に、約半年後の昭和15年3月23日に病で急逝し、すでにこの世の人ではありませんでしたが、鏡花の遺族や友人たちが岩波書店から刊行する『鏡花全集』の準備を進める中で整理した原稿類、そして愛用品などの永年保存を願って様々に検討した結果、瀧太郎と縁の深い慶應義塾にその希望を託したのです。鏡花没後、すぐ夫人の養女となった鏡花の姪の泉名月さんの遺族の元には、この時、小泉塾長から送られた礼状(同年8月19日付)が残されています。整理製本が必要な自筆原稿類は、さらに一年後の昭和17年に寄贈、泉家で綴製本された上で、日本画家・鐫木清方が題箋に作品名を丹念に揮毫する形で収められました。

背景) 泉鏡花肖像: 泉鏡花記念館提供

左) 泉鏡花自筆原稿「縷紅新草」: 慶應義塾図書館所蔵
鐫木清方揮毫による題箋

縷紅新草

貴重書紹介

恐ろしくて神聖で……

鏡花と「見えないけれどもある」ものたち

富永真樹（文学部非常勤講師）



泉鏡花作品の登場人物は日本各地を歩き回り、様々なものに一人はもちろん、動物や妖怪、幽霊まで一出会います。しかし鏡花自身は、旅行好きではあっても日常は出不精だったそうです。みなさんはその理由をどう推理しますか？ 出不精の要因は、実に意外なところにあります。それは「犬」。鏡花は狂犬病を恐れ、「もし噛みつかれて狂犬病になり、四ツん這ひでワン／＼なんていふ病気にでもなつては大変だ(*)」と話していたそうです。

同様に鏡花は黴菌を極度に恐れ、口に入るものは全てぐらぐらと煮立てないと気が済まなかったといえます。汽車の中でアルコールランプでお茶を沸かし、旅先の宿でも小鍋を持参し料理を煮て周囲の人々を困らせるほど。刺身や酢の物はいうまでもなく、大根おろしであっても煮たというのですから驚きます。

こうしてみると、鏡花は「あるけれども見えない」あるいは「見えないけれどもある」世界を強く意識した作家といえるでしょう。それは恐怖であり、同時に敬意でもありました。慶應義塾図書館蔵の遺品には、おびたしい数のお札、お守りがあります。鏡花は「見えないけれどもある」神や幽霊、妖怪といった人知を越えた存在をある種の切実さを持って信じていました。散歩中出くわした神社仏閣の前では必ず土下座したと伝えられるほどです。

そして鏡花にとって、小説の執筆とはこうした見えないものの力に触れようとする事だったのかもしれませんが。遺品には彼の机の上に置かれていた「御神酒徳利」も遺されており、鏡花は浄めの水を入れ、執筆に行き悩んだときはこれを原稿に振りかけました。「見えないけれどもある」ものの存在する領域へと凝らしされた恐怖と敬意の混じり合う鏡花の視線は、その小説作品に凝縮されています。興味のある方は、ぜひ鏡花作品を読んでみてください。そのとき「見えないあるもの」が、そっと傍を通り過ぎるかもしれません。

(*) 小村雪岱「泉鏡花先生のこと」(『ホーム・ライフ』昭和14年11月)

写真：泉鏡花遺品（非公開・慶應義塾図書館所蔵）

左）原稿のお浄めに使った御神酒徳利 上）鏡花が集めたお札とお守りの一部

PCエリア誕生

1階メインカウンターの斜め前に“PCエリア”が誕生しました。
KOSMOSで「オンラインで利用可」と表示される資料を使いたい場合、このPCエリアのログイン端末（インターネット接続PC）でアクセスが可能です。ITCアカウントでログインの上、ごゆっくりお使いください。図書館内のプリンタは3階エレベータ前にあります。

PC Area

■利用時間 <Close>

平日 Everyday (Mon-Fri)	休業期間 Closing Holiday (Mon-Fri)	土曜日 Saturday
21:30まで	19:30まで	17:30まで

- **ITCアカウントが必須です。**発行はITC^{new}でお手続きください。
To log in the terminals, use your "ITC account" issued by the Mita Information Technology Center (ITC). For inquiries about the "ITC account", contact the Mita ITC.
- **図書館内のプリンタは、3階エレベーター前にあります。**
Use the integrated printing system on the 3rd floor to print out.
- **Excel、Word、パワーポイントはインストールされています。**
Microsoft Excel / Word / PowerPoint are available for those terminals.
- **障校舎や大学附校舎のPCルームもご利用ください。** osmos
Also use terminals in the PC rooms at ①Graduate School Building or ②South School Building.



学生スタッフを募集します

— 三田に通学している学部生・大学院生の方 —

本誌「PETAL：知識の花弁」の編集に携わってくださる学生スタッフ（アルバイト）を募集します。

主な業務内容はデザイン・企画です。

「Adobe Illustrator」でデザインデータ作成が可能な方をお待ちしています。

詳細はメールにてお尋ねください。

→ mmc-cir-group@keio.jp 知識の花弁編集委員宛と明記してください。



学生スタッフが作成したデザインです

PETAL

2020 WINTER



編集・発行／慶應義塾大学 三田メディアセンター <http://www.mita.lib.keio.ac.jp>
発行日／2020年1月1日 印刷／有限会社 梅沢印刷所